

## 家族経営協定の締結事例

都道府県名	氏名等(敬称略)	所在地	生産品目	締結年 (平成)	締結範囲		家族経営協定締結の効果
					構成員	年齢	
秋田県	(非公開)	秋田県仙北市	ネギ	24	経営主 妻	30代 30代	規模拡大・機械化の計画的進展、生産・販売だけでなく家事や子育てでの協力深化
茨城県	橋本 良一、橋本 和子	茨城県笠間市	自然薯、水稻(コシヒカリ、黒米、緑米)	26	経営主 妻	60代 60代	夫婦の役割明確化、妻の収入確立・営農への積極参加
栃木県	興野 一美、興野 礼子、 興野 陽洋	栃木県那須烏山市	酪農、農産加工	11 12 24	経営主 妻 息子(後継者)	50代 50代 20代	妻の収入・休日の明確化、経営の改善
群馬県	利波 浩樹、利波 尚子	群馬県高崎市	ハウレンソウ、ニンジン、 中玉トマト(無加温ハウス)	20	経営主 妻	30代 40代	共同経営者としての意識共有、夫婦の経営・家事・育児の役割分担明確化
静岡県	菅沼 喜代彦、菅沼 厚子、 菅沼 秀彦、菅沼 智子	静岡県湖西市	スプレーマム	13 26	経営主 妻 息子(後継者) 後継者の妻	60代 50代 30代 30代	労働時間・休日の明確化、経営能力の向上
富山県	大坪 洋介、大坪 順子	富山県高岡市	水稻、野菜(いちご、オクラ、 玉ねぎ、黒キャベツ等)	24	経営主 妻	30代 30代	夫婦の役割明確化、女性認定農業者としてのロールモデル化
岡山県	富岡 紀明、富岡 京子	岡山県真庭市	ソリダゴ、小菊、ストック 他花卉類複数	21	経営主 妻	60代 60代	夫婦の役割明確化、経営・生産スキルの向上
熊本県	前田 真也、前田 奈々恵	熊本県荒尾市	水稻、ナス	26	経営主 妻	30代 20代	非農家出身の妻の農村生活への適応、夫婦の役割明確化
宮崎県	黒木 武利、黒木 福美、 黒木 哲、黒木 朋子	宮崎県日向市	プロイラー、施設トマト	24	経営主 妻 息子(後継者) 後継者の妻	60代 50代 30代 20代	将来の経営委譲を見据えた経営計画の推進、家族の役割明確化
鹿児島県	向井 利秋、向井 美由紀、 向井 耕二、向井 和子	鹿児島県鹿児島市	施設花き	19 22 24	経営主 妻 経営主の父 経営主の母	30代 30代 60代 60代	ライフステージに応じた経営の見直し、法人化を見据えた経営改善

## 新規参入 夫婦で大規模ネギ生産を実践中！

○氏 名 (本人の希望により非公開)

○所 在 地 秋田県仙北市

○生 産 品 目 ネギ

○締 結 年 平成 24 年

○締結範囲(年齢) 経営主 (30 代)  
妻 (30 代)

○締結のきっかけ

経営主の実家は製材所で、当初家業を行っていたが、平成 22 年に就農することを決意しネギ生産を開始した。就農当初からネギの規模拡大を志向していたが、平成 24 年、青年就農給付金制度が始まったのを契機に、他の農業法人に勤務し農業経験を積んでいた妻と家族経営協定を締結して、夫婦で力を合わせてネギの大規模経営をめざすことになった。

○締結の効果

締結時、ネギの作付面積は 60 a しかなかったが、平成 25 年には 120 a、平成 26 年には 150 a と計画的に拡大し、機械化も進めている。また、契約販売のため、販売は安定している。

家族経営協定を締結したことで、夫婦の気持ちが一つになり、お互いに相談しながらネギの生産・販売に取り組むことができるようになった。また、家事や子育てなど生活面でも協力しあっている。

(仙北地域振興局より)

ご夫妻は、平成 27 年にはネギのさらなる規模拡大を計画している。既に仙北地域ではトップクラスの作付面積を誇り、技術も高くなっていることから、今後は地域農業の牽引役としての役割が期待されている。

## 妻が心強い経営パートナーに

○氏 名 橋本 良一、橋本 和子

○所 在 地 茨城県笠間市

○生 産 品 目 自然薯  
水稲（コシヒカリ、黒米、緑米）

○締 結 年 平成 26 年



○締結範囲(年齢) 経営主(60代)  
妻 (60代)

○締結のきっかけ

我が家は、農業生産の規模があまり大きくないため、農産物を加工することで、付加価値をつけた販売を目指していた。今まで農業の手伝いをしてきていた妻と話し合い、妻が中心に加工部門を進めていくことになった。加工部門立ち上げに際し、市役所に相談したところ、市の担当者の方から、認定農業者の共同申請と家族経営協定の締結について紹介していただき、協定のことを知った。

協定の締結について、妻に相談したところ、「今まであいまいだった仕事の役割が明確になる」と賛成してもらえたため、協定を締結することになった。

○締結の効果

締結の内容は、私が農作業全般を担当し、妻が加工部門に加え、経理を新たに担当することになった。締結の話し合いの中で、加工部門を任せる代わりに、加工部門で頑張った収入は妻のものにすることとしたため、本人も張り切って販売イベントや、加工の研修会に参加しており、意欲向上につながっている。

また、経理部門の簿記記帳を妻が行うことで、我が家の農業経営全体を妻も把握するようになった。これにより、妻が積極的に営農に参加するようになり、その分、自分も外にでて農業を勉強する機会が持てるようになった。さらに、新たな投資を考えるとときには、妻に相談するようになり、意見を聞いて、2人で決めていくことができるようになった。

## 共同経営で魅力ある農業経営、夢がかなえられる農業環境

○氏 名 興野 一美、興野 礼子、興野 陽洋

○所 在 地 栃木県那須烏山市

○生 産 品 目 酪農、農産加工

○締 結 年 平成 11 年 締結  
平成 12、24 年 見直しによる再締結



○締結範囲(年齢) 経営主 (50代)  
妻 (50代)  
息子(後継者)(20代)

### ○締結のきっかけと経過

研修会等で家族経営協定についての話を聞き、経営を良くしたいという思いと、生活設計をたて子供の成長とともに教育期にかかる経済的な計画や経営改善を考えるため、子供の役割を含め夫婦で、平成 11 年 2 月初回の家族経営協定を締結した。子供の成長や家族の変化に合わせて、平成 12 年 3 月に、両親の介護を加え見直しを行った。平成 23 年長男が就農し、研修期間を終えた平成 24 年 8 月家族一人一人の能力を生かし共同経営を確立するため 2 回目の見直しを行い認定農業者の共同申請を行った。

### ○締結の効果

協定を結んだことで、自分名義の報酬や休日をはっきりするとともに、かねてから実施していた菓子作りの技術を地域に広め直売所での加工活動が、経営の一部として認められている。各自の仕事や生活面でメリハリができるとともに、女性農業士に認定され幅広い活動が行えている。

また、認定農業者の共同申請を行い経営目標の共有化や経営管理の合理化が図られている。併せて、後継者の就農をきっかけに協定の見直しを行うことで、個々の役割分担が明確になり、規模拡大やゆとりある農業経営目標を立て夢の実現に向け協力し家族経営協定が経営改善の一躍を担っている。

## 2人で築く有機野菜農業

○氏 名 利波 浩樹、利波 尚子

○所 在 地 群馬県高崎市

○生 産 品 目 ホウレンソウ、ニンジン、  
中玉トマト（無加温ハウス）

○締 結 年 平成 20 年



○締結範囲(年齢) 経営主 (30代)  
妻 (40代)

○締結のきっかけ

有機農業で農業経営をするため、夫婦で新規参入し、平成19年より自立経営を始めた。高崎市の認定農業者の認定を受けようと考えていた時に市から家族経営協定を勧められた。さらに、地元でお世話になっている農業者（締結者）の方からも協定の内容や締結のメリットなど具体的に教えていただいたことをきっかけに家族経営協定を締結した。

○締結の効果

2人で農業経営をしていくという気持ちは当初から持っていたが、栽培計画や作業の進め方など常に話し合い、共同経営者としての意識を持って農業をしている。また、書面にしたことで、お互いの役割分担もはっきりした。農業経営と家のこと（家事や育児）もお互いに話し合え、無理なくお互いの時間を明確にすることができている。

それぞれが、地域活動へ参加することも大切にしており、消防団、伝統文化の保存会、祭りの実行委員、学校給食協力会、PTA役員、ママさんバレーの会などに参加し、充実した生活に結びついている。このような地域活動への参加により、仲間づくりができ、地域との関わりも深められている。

## 研修や視察に積極的に参加し、家族の資質を向上

○氏 名 菅沼 喜代彦、菅沼 厚子、  
菅沼 秀彦、菅沼 智子

○所 在 地 静岡県湖西市

○生 産 品 目 スプレーマム

○締 結 年 平成 13 年 締結  
平成 26 年 見直しによる再締結



○締結範囲(年齢) 経営主 (60 代)  
妻 (50 代)  
息子(後継者) (30 代)  
後継者の妻 (30 代)

### ○締結のきっかけと経過

締結当時、湖西市初の女性農業委員の佐藤氏よりこのような協定があると勧められた。そこで、当時の生活改善研究グループが男女共同参画の勉強会を開催し、家族経営協定の概要や作成方法を学び、締結するに至った。

また、平成 26 年には、後継者の妻が就農したため、新たに 4 名で協定を見直し、更新した。

### ○締結の効果

家族間の役割、労働時間、休日を明確に定めることで、より働きやすく、より休みやすくなった。また、能力向上面において「経営能力や生産技術の向上に努めるため、各種研修会や研究会、視察等に積極的に参加すること」と定めたことにより、以前より農業経営に関する見識を深める機会が増え、家族全体の資質向上を図ることができている。

## 部門と役割を明確にし、パートナーシップを発揮！！

- 氏 名 大坪 洋介、大坪 順子
- 所 在 地 富山県高岡市
- 生 産 品 目 水稲、野菜（いちご、オクラ、  
玉ねぎ、黒キャベツ等）
- 締 結 年 平成 24 年



- 締結範囲(年齢) 経営主 (30代)  
妻 (30代)

### ○締結のきっかけ

夫が郵便局を退職し夫婦で西洋野菜を生産していた翌年の平成 23 年、自農園や地元の野菜のおいしい食べ方や新しい食べ方を市民に伝えたいと「軽食喫茶」を開店した。これを機会に、それぞれの部門と役割を明確にした。

### ○締結の効果

主穀作部門全般及び野菜部門の栽培管理・収穫・出荷に係わることは経営主で、選定・管理作業に係わること及び飲食部門は妻とし、それぞれの持ち場で生き生きと能力を発揮している。

また、夫婦共同申請で認定農業者になった。妻は高岡市で最も若い女性認定農業者として若い女性の農業参入のモデルとなっている。

## どんな事も必ず話し合っで決める、お互い納得の農業経営

- 氏 名 富岡 紀明、富岡 京子
- 所 在 地 岡山県真庭市
- 生 産 品 目 ソリダゴ、小菊、ストック他  
花卉類複数
- 締 結 年 平成 21 年
- 締結範囲(年齢) 経営主 (60 代)  
妻 (60 代)



### ○締結のきっかけ

平成 15 年に I ターンで就農した当初から、夫婦で話し合いをして、経営方針や、作業計画を立てていかなければ、経営はうまくいかないという思いがあった。

就農 5 年目の頃までは、話し合いのみで、文書化していなかったため責任が曖昧な部分もあった。

また、手が回らないほど忙しいのに思ったほど収益が上がっておらず、栽培品目や作業体系、販売管理など経営管理全般の見直しの必要性を感じていた。

ちょうどその頃、普及センターから「役割分担や経営目標、計画作成についての取り決めを文書化して、経営改善に取り入れてはどうか」と家族経営協定を進められたことがきっかけで締結した。

### ○締結の効果

締結後は、任された部門の管理に対して責任感がより強くなった。また、日々の作業の段取りから年間の計画・改善対策や長期の機械・施設導入計画まで、必ずお互いに報告、連絡、相談をして決めるため話し合いの回数が増えた。

話し合いや相手に説明する回数が増えたことで、具体的に経営の問題点や解決策を探すようになり、問題意識をもって経営改善に取り組むようになった。

また、お互いに必要な能力やスキルについても話し合うことから、研修会に具体的な目的や目標を持って参加し、スキルアップにつながっている。

近年は、部門ごとの作業時間の把握、販売実績・販売先の分析、パソコンを利用した複式簿記記帳で費用の部門管理を取り入れ、自ら経営診断をして経営改善に生かしている。

徐々に、収益や所得も増えており、また、作業競合の解消や計画的な作業を行うことで、休暇も定期的にとれるようになった。今まで試行錯誤しながら行ってきた事の成果が出始めている。



## 協定締結でスムーズに農村生活に溶け込めた非農家出身の妻

○氏 名 前田 真也、前田 奈々恵

○所 在 地 熊本県荒尾市

○生 産 品 目 水稲、ナス

○締 結 年 平成 26 年



○締結範囲(年齢) 経営主 (30代)  
妻 (20代)

### ○締結のきっかけ

私が長野県の八ヶ岳中央農業実践大学校に勤めていた時、農業が好きな妻と出会い結婚。私の実家のある荒尾市で就農することになった。

両親と兄夫婦が果樹（梨）経営をしていたため、夫婦で新たな農業を始めようと、青年就農給付金を受けながら水稲、ナスの経営を開始した。

青年就農給付金の手続きの際、夫婦で家族経営協定を締結した。

### ○締結の効果

妻は、埼玉県所沢市出身の非農家であるため、好きな農業とはいえ農村地域や農家生活については全く経験がなかったため、家族経営協定に経営の方針や農業・家事の役割分担、休日等を盛り込んだことで、農村生活にも少しずつ慣れることができた。

また、方針の決定等については、家庭内だけでなく、圃場でも農作業をしながら話し合うなど、お互いの意見を聞きあえる環境が整ってきた。

家族経営協定の締結で、役割分担が明確になり、育児についても、夫婦で協力して子供の面倒を見ている。

農作業が天候に左右されるため、現在のところ休日が協定どおりには取れていない。今後は夫婦で話し合い、工夫しながら協定を実行できるよう努めていく予定。

## 後継者の早期自立とスムーズな経営継承を促す家族プラン

○氏 名 黒木 武利、黒木 福美、  
黒木 哲、黒木 朋子

○所 在 地 宮崎県日向市

○生 産 品 目 ブロイラー、施設トマト

○締 結 年 平成 24 年



○締結範囲(年齢) 経営主 (60代)  
妻 (50代)  
息子(後継者) (30代)  
後継者の妻(20代)

### ○締結のきっかけ

締結前年に長男が結婚、同居するようになり、後継者として早期に自立できるようにとの配慮から、家族経営協定を締結した。同時期に、認定農業者の経営改善計画更新のタイミングであったので、長男夫婦も共同申請を行った。

長男は、就農前に企業でトマトの栽培指導員をしており、就農にあたっては、トマトの1棟を部門担当から開始し、将来的にはトマト、ブロイラーの経営全体を担う計画である。

経営主の妻が、長年地元で経営簿記の自主記帳グループを主宰しており、長男の妻は同居と同時に、記帳会に参加し、育児、トマト部門、経営管理に携わっている。

家族では、5年以内に住宅新築の希望もあり、その夢の実現に向けた経営の改善、家族の役割分担、我が家のモットー等を協定書に織り込み、その実効性を伴うように、関係者立会いの下で調印を行った。

### ○締結の効果

協定書は、左側に経営改善計画の認定申請書を、右側に協定書を位置づけており、将来の我が家の経営目標と改善点、それを実行するための役割分担、就業条件等が一覧できるスタイルを取っている。

住宅新築の夢をかなえるために、トマトの収益で家計を賄い、ブロイラー収益を準備金に充てられるような経営を目指している。毎朝食時のミーティング、出荷終了時の反省と次作の検討など、家族の話し合いが基調とされている。現在はトマト部門全体を長男夫婦で担当するようになっている。

勤め人並みに休日がとれることを目標に締結したが、定期ではないものの仕事に合わせて調整して夫婦単位で確保するようにしている。当面はSAP活動、育児等、将来に渡る人脈・土台形成期とし若夫婦を見守っている。経営移譲の時期、夫婦の引退計画も見据えた家族プランを立て、今年度いっぱい移譲を予定している。

目標通りには進んでいない部分もあるが、「家族が健康に気を付け、互いに競争意識を持ち、楽しく、人の集う家庭にしたい」とのモットーは実践されている。

## ライフステージに応じて協定を見直し、各人役割発揮で経営発展！

○氏 名 向井 利秋、向井 美由紀、向井 耕二、向井 和子

○所 在 地 鹿児島県鹿児島市

○生 産 品 目 施設花き

○締 結 年 平成 19 年 締結  
平成 22、24 年 見直しによる再締結

○締結範囲(年齢) 経営主 (30 代)  
妻 (30 代)  
経営主の父 (60 代)  
経営主の母 (60 代)

### ○締結のきっかけと経過

後継者の就農、結婚、経営移譲など、経営・生活の節目を機会に家族経営協定の締結、見直しを行った。

#### ① 後継者(現経営主)の就農(H19)

目的、意志決定の参画、経営計画の策定、経営の役割分担、収益分配、就業条件、将来の経営移譲、将来の経営目標について取り決めた。中でも将来の経営目標では、具体的に年次別の目標を設定した。

#### ② 後継者(現経営主)結婚(H22.5:見直し)

結婚を機に配偶者も含めて4者で締結。初回の協定内容を見直し、わが家の Motto、経営目標、家族の話し合い、役割分担(農業面と生活面)、就業条件、経営移譲、健康管理、生活管理について詳細に取り決めた。家計と農業の通帳分離や農家生活面の役割、労働時間や収益配分についても明文化し、4者で認定農業者の共同申請を行った。

#### ③ 後継者への経営移譲(H24.12:2回目見直し)

平成25年に経営移譲するにあたり、農業委員会や行政担当者と共に手順や必要事項について確認し、協定の内容も見直した。併せて、経営主の母の勧めにより、後継者の配偶者は農業者年金に加入した。

### ○締結の効果

協定の中で、将来の経営目標では、具体的に年次別の目標を設定するとともに、経営の実績(ハウス毎、品種毎の収量単価)を記録し、品種の更新に活用している。

それぞれの役割分担も明確になり、後継者の配偶者もパソコン簿記記帳に取り組み、後継者夫婦で経営の数字を把握できるようになった。今後は法人化を目指している。